

講義名	管理会計論			授業形態	
担当教員	早川 翔	開講期・曜日・時間	後期 月曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	3年生

主題と概要

管理会計は、社長から部長レベル、そして現場の第一線で活躍する従業員まで、企業「内部」の人々に情報を提供するための会計です。企業内部の人々は、さまざまな経営上の問題を解決するために管理会計情報を利用します。本講義では、企業内において管理会計情報がどのように利用されているのかについて学習していきます。

到達目標

- (1) 従業員の成果を測定したり従業員を動機づけるうえで、会計情報をどのように利用することが望ましいかが理解できるようになる。
- (2) 複数の投資案を比較する状況など、経営上の意思決定を行う上で会計情報をどのように利用すべきかが理解できるようになる。
- (3) BSCやアミーバ経営などユニークな管理会計システムの特徴について学習することで、マネジメントにおいて管理会計システムが果たす役割が理解できるようになる。

提出課題

毎回の講義で授業内容にもついた課題を課します。課題の提出にはスマートフォンやタブレットなどが必要です。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

次回の授業の講義冒頭にてフィードバックを行います。正答率が低い課題に対しては、再度解説を行う場合があります。

評価の基準

毎回の授業内課題の成績（100%）で評価を行います。

履修にあたっての注意・助言他

- ・授業では計算問題を扱うことがあるため電卓が必要です。
- ・ICTを活用した授業内課題を実施するため、スマートフォンやタブレット端末が必要です。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

授業計画

- 第1回 管理会計とは何か？
- 第2回 原価の基礎概念
- 第3回 OVP分析
- 第4回 予算管理と責任会計
- 第5回 直接費の差異分析
- 第6回 製造間接費の差異分析
- 第7回 繰上り損益と期外数量差異
- 第8回 原価変動の決定要因
- 第9回 差額分析
- 第10回 顧客収益性分析
- 第11回 複数製品に対する差異分析
- 第12回 資本予算（正味現在価値法と内部収益率法）
- 第13回 資本予算（回収期間法と発生主義会計収益率法）
- 第14回 事業部の業績評価と利益調査
- 第15回 経営管理者の業績評価

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

次回の授業までに、授業で扱った問題について独力で定みなく解けるまで復習する必要がある（4時間程度）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本科目が定める目標(1)～(3)は、本学経営学科の共通DPに貢献する。これらの目標を達成することで、企業においてどのように管理会計システムを構築すべきかを考えるための知識が身につく。これらの知識は、企業マネジメントにおける問題探索や課題提案に役立つ。目標(1)～(3)は会計コースのDPに貢献する。管理会計システムは、戦略実施のための会計システムである。(1)～(3)の達成により、企業が直面する問題や企業の強みを発見し、経営戦略の構築に対して貢献できる。また、目標(1)～(3)は起業・事業継承のDPにも貢献する。管理会計システムは、戦略実施のための会計システムである。(1)～(3)の達成により、起業や事業承継、社内ベンチャーにおいて必要となる夢やビジョンを具体的な事業計画に落とし込むプロセスについて理解できる。目標(1)～(3)は、本学マーケティング学科のDPにも貢献する。これらの目標を達成することで、企業においてどのように管理会計システムを構築すべきかを考えるための知識が身につく。これらの知識は、企業マネジメントや流通における問題探索や課題提案に役立つ。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

授業内課題にてICTを利用します。

実務経験の有無及び活用

備考